

■ :回答完了 □ :今回回答 □ :次回以降回答

区分	No.	コメント			回答	備考
		開催回	日付	内容		
周辺 地質・地質構造	段丘面	1	第531回	2017.12.8	能登半島では中位段丘 I 面以外の段丘面が認定されているため、それらのデータを用いて、段丘面の高度分布を説明すること。	2021.5.14審査会合
周辺 地質・地質構造	海水準	2	第531回	2017.12.8	海水準変動について、日本海側の研究事例を説明すること。また、気候変動の調査結果から考察できないか検討すること。	2021.5.14審査会合
周辺 地質・地質構造	富来川南岸断層	3	第531回	2017.12.8	富来川南岸断層の隆起側である福浦港から富来港の間に中位段丘 I 面が分布しないことについて、地形面の成因に関する調査結果をより詳細に説明すること。	2021.5.14審査会合
周辺 地質・地質構造	富来川南岸断層	4	第531回	2017.12.8	富来川南岸断層に対応する二つの平行したリニアメント・変動地形について、トレンチ調査結果等を詳しく説明すること。	2021.5.14審査会合
周辺 地質・地質構造	富来川南岸断層	5	第531回	2017.12.8	富来川南岸断層について、重力異常図や既往研究における高位段丘面の分布標高のギャップが見られるため、詳細な検討結果を示すこと。	2021.5.14審査会合
周辺 地質・地質構造	水準測量	6	第531回	2017.12.8	水準点標高の経時変化等も用いて、近年の地殻変動の状況を加えるなど説明性を向上させること。	2021.5.14審査会合
周辺 地質・地質構造	物理探査	7	第531回	2017.12.8	重力異常図や空中磁気図といった地球物理学的な調査結果と、断層や地質構造との関係について説明すること。	2021.5.14審査会合
周辺 地質・地質構造	海域	8	第531回	2017.12.8	隆起が認められる地点において、海底地形や海底地質、表層の堆積物がどのような分布、形状になっているのか説明すること。また、それと比較して、隆起に関係しない地点ではどのような違いが認められるのか説明すること。	2021.5.14審査会合
周辺 地質・地質構造	海域	9	第531回	2017.12.8	B1層及びB2層の年代について、平均堆積速度を用いた層厚推定の妥当性を説明すること。	2021.5.14審査会合
周辺 地質・地質構造	福浦断層	10	第973回	2021.5.14	福浦断層の評価について、既往知見及び地形・地質調査結果に基づき断層トレースを明示したうえで、周辺の谷地形及び端部の延長方向に変形構造がなく、断層が連続しないことを確実に説明できるデータを示すこと。	
周辺 地質・地質構造	長田付近	11	第973回	2021.5.14	活断層研究会(1991)が示す長田付近の断層周辺の地質図について、根拠としたルートマップを示すこと。	
周辺 地質・地質構造	和光台南 高ツボリ山北西方 I 高ツボリ山北西方 II 高ツボリ山東方	12	第973回	2021.5.14	活断層研究会(1991)が示す和光台南の断層、高ツボリ山北西方 I リニアメント、高ツボリ山北西方 II リニアメント及び高ツボリ山東方リニアメントについて、対応する断層は認められないと評価しているが、必要に応じ地形・地質調査のデータを充実させること。	
周辺 地質・地質構造	高ツボリ山東方	13	第973回	2021.5.14	活断層研究会(1991)が示す高ツボリ山東方リニアメントについて、その位置を横断する反射法地震探査のデータも用いて、評価を行うこと。	
周辺 地質・地質構造	基盤島冲断層 兜岩冲断層	14	第973回	2021.5.14	基盤島冲断層及び兜岩冲断層の端部の評価について、断層構造が認められないことを確実に確認した測線まで延長することを含め、再検討すること。	
周辺 地質・地質構造	富来川南岸断層	15	第973回	2021.5.14	富来川南岸断層の北東端の評価について、既往知見及び地形・地質調査結果に基づき断層トレースを明示したうえで、端部の延長方向に断層が連続しないことを確実に説明できるデータを示すこと。	

■ :回答完了 □ :今回回答 □ :次回以降回答

区分		No.	コメント		回答	備考
			開催回	日付		
周辺 地質・地質構造	富来川南岸断層～ 兜岩冲断層	16	第973回	2021.5.14	海域の基盤岩上面のコンター図を示すこと。	
周辺 地質・地質構造	海域	17	第973回	2021.5.14	陸上ボーリング調査により確認したKktテフラと対比した海域のB1 ₁ 層が敷地近傍まで連続するとしているが、その根拠に用いた音波探査記録について、海上ボーリングとの対比を行ったNI-10測線を用いて示すこと。	
周辺 地質・地質構造	段丘面	18	第973回	2021.5.14	能登半島の段丘面高度分布について、水準点標高経時変化、2007年能登半島地震時の地殻変動との関係を含む能登半島西岸のデータをより詳細に分析し、周辺の断層や地震性隆起との関係を総合的にとりまとめること。また、富来川南岸断層南西方の基盤岩の分布標高についても示すこと。	